



岩手大学人文社会科学部 学部案内

人文社会科学部の歩み

人文社会科学部は、1966年（昭和41年）に設置された教養部を1977年（昭和52年）に発展的に改組して創設された総合学部です。この学部創設は、従来岩手大学に欠けていた文系学部の設置を望む地域社会の要望に応えるものでもありました。

学部創設以来、自然科学との密接な連携のもとに、従来の文学部、経済学部、法学部といった区分を超えて、人文科学・社会科学の総合的な教育研究を行ってきました。

総合系学部として「専門深化」と「総合化」をより充実させ、グローバル化時代の地域社会の課題に即ち向き合うため、2016年（平成28年）に人間文化課程および地域政策課程からなる2課程14専修プログラム体制（現行）へ改編しました。

引き続き教育研究のさらなる改善のため、2025年（令和7年）4月から8専修プログラム体制に再編します。

学部の教育目的

人文社会科学部は、現代社会の諸問題を総合的観点から理解する能力と、人間・文化・社会・環境に関する専門的知識・能力を有し、地域社会および国際社会に実践を通して貢献できる人材を養成することを目的とします。

課程の教育目的と特色

人間文化課程

地域社会の人々の心身と文化の問題に取り組めます

- 「多文化共生」と「ウェルビーイング」を柱として、国際文化、日本文化、現代社会、人間行動の各分野を踏まえた上で、総合化を図ります。
- 学部共通科目として「総合科学基礎（人間文化）A・B」を配置し、その中で地域が直面する問題について総合的に学修させます。「国際交流研修」等の課程共通科目では、国際交流体験・留学等を行います。
- 1年次での基礎科目の履修、2年次以降の実践的な演習（または実験・実習）を中心としたアクティブ・ラーニング科目の履修などを通じて、グローバル化に対応した地域づくりや地域社会の発展・向上に資する社会的実践力を育成します。

地域政策課程

震災復興から持続可能な社会づくりに取り組めます

- 地域創生の課題に総合的かつグローバルな視点から取り組める人材を養成するために、法学・経済学・環境学の高度な総合化を図ります。
- 学部共通科目の「総合科学基礎（地域政策）A・B」と課程共通科目において、地域課題との関連性のなかで法学・経済学・環境学の基礎理論を共通に学修させる一方で、4つの専修プログラムを配置することにより、自らの問題意識にもとづいて地域課題に取り組む能力を養います。
- 各専修プログラムにはPBL科目*を置き、具体的な解決手法の修得強化を図ります。

* PBL科目＝課題解決型学習科目

再編後（2025年4月～）

再編前 / 現行（～2025年3月）

課程 Departments	専修プログラム Majors		再編後（2025年4月～）	専修プログラム Majors		再編前 / 現行（～2025年3月）
	主専修プログラム	副専修プログラム		主専修プログラム	副専修プログラム	
人間文化課程 Human Sciences and Cultural Studies (入学定員 125名)	国際文化 Studies in International Culture	国際文化	グローバル、地域人材育成 〔課程横断型プログラム〕	行動科学 Studies in Behavioral Sciences	行動科学	グローバル・地域人材育成 〔課程横断型プログラム〕
	日本文化 Studies in Japanese Culture	日本文化		スポーツ科学 Studies in the Science of Sports	スポーツ科学	
	現代社会共創 Studies in Co-creation for Contemporary Society	現代社会共創		現代文化 Studies in Modern Culture	現代文化	
	人間行動 Studies in Human Behavior	人間行動		異文化間コミュニティ Studies in Intercultural Community Management	異文化間コミュニティ	
地域政策課程 Regional Policy (入学定員 75名)	政策法務 Studies in Public Law and Policy	政策法務	副専修 地域社会連携 〔プログラム〕	歴史 Studies in History	歴史	
	企業法務 Studies in Business Law	企業法務		芸術文化 Studies in Arts and Culture	芸術文化	
	地域社会経済 Studies in Regional Social Economy	地域社会経済		英語圏文化 Studies in English Language and its Cultures	英語圏文化	
	地域環境 Studies in Environment	地域環境		ヨーロッパ語圏文化 Studies in European Languages and Cultures	ヨーロッパ語圏文化	
				アジア圏文化 Studies in Asian Cultures	アジア圏文化	
			政策法務 Studies in Law and Policy	政策法務		
			企業法務 Studies in Corporate Law	企業法務		
			地域社会経済 Studies in Regional Social Economy	地域社会経済		
			地域社会連携 Studies in Regional Community Liaison	地域社会連携		
			環境共生 Studies in Environmental Symbiosis	環境共生		

※1 人文社会科学部では、保健体育・美術・音楽・書道の教員免許は取得できません。

取得可能な資格

●教育職員免許状

所属課程により、取得できる教員免許の種類が異なります。

《人間文化課程》 中学校：国語、社会、英語 高等学校：国語、地理歴史、公民、英語

《地域政策課程》 高等学校：公民

●学芸員資格 ●日本語教員 ●社会調査士 ●認定心理士 ●公認心理師* ●環境再生医 初級 ●自然再生士補

一部の資格には、課外科目（卒業に必要な単位に算入できない科目）の単位修得が必要なものもあります。

これらの資格以外にも、学部で専門に学んだことが、さまざまな資格取得に結びつく可能性は十分あります。実際に国家資格などを取得している学生も少なくありません。ただし、学部での教育は資格取得だけを指すものではないことも理解してください。

※学部を卒業しただけでは資格を取得することはできません。公認心理師の資格取得に関する詳細は、厚生労働省のホームページをご確認ください。

教育課程

人間文化課程・地域政策課程の2課程制

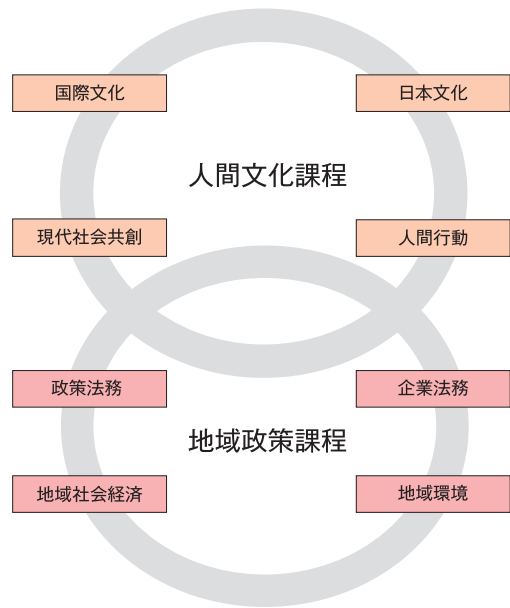
震災復興に加え人口減・グローバル化の課題に直面する地域社会にあって、その来歴・現状を深く理解し、地域創生に向けグローバルな視野をもって貢献できる人材の養成を目的として人間文化課程・地域政策課程を設置しました。

主副専修プログラム制による総合化

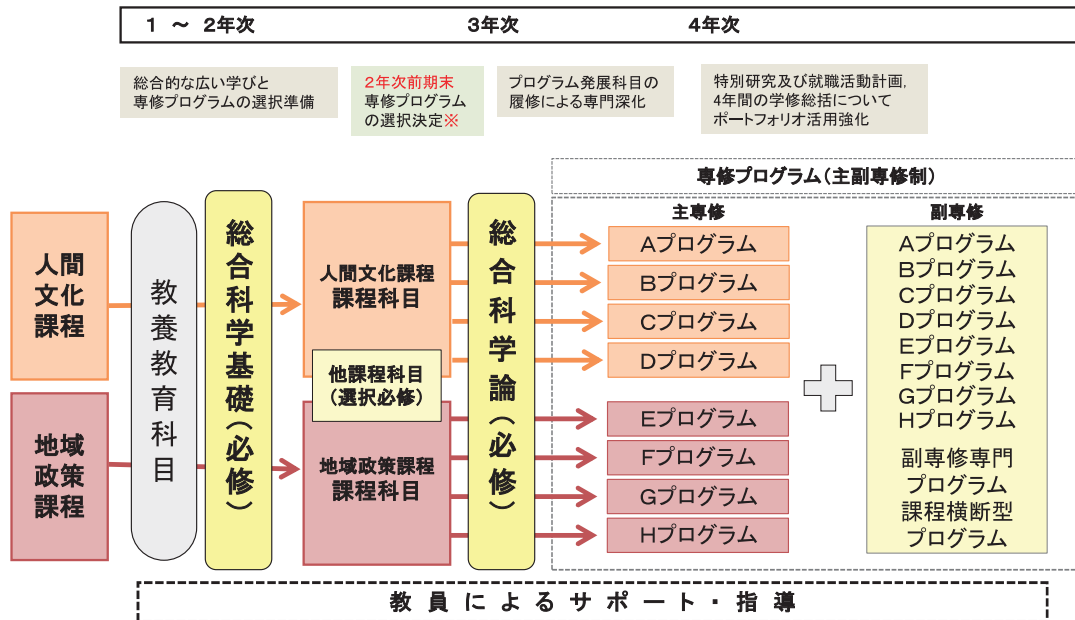
従来の「課程-コース制」及び「コースカリキュラムに基づく主副専攻制」を廃止し、「課程-専修プログラム制」を新設しました。主副専修制により専門的学びと総合的学びを確保しました。

学修ポートフォリオによる自覚的・主体的学修の強化

在学全期間にわたるポートフォリオの活用により、学生の自覚的・主体的学修を促し、個別指導を徹底します。主副専修プログラム制の総合的学修をサポートします。



学びのイメージ

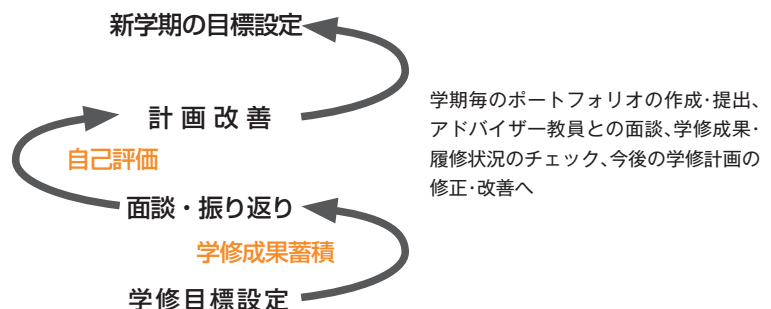


学生は主専修プログラムを1つ(所属課程のもの)、副専修プログラム(主専修で選択したものを除き、課程横断型プログラムを含む)を1つ選択して学修を進めます。

学修ポートフォリオを活用し、主副専修プログラム制による学生の主体的学びをサポート

主専修プログラムに「近い分野」あるいは「遠い分野」の専修プログラムを副専修プログラムとして履修することで、多様な学修成果、能力を増うことが可能です。

- 総合的学びと専門的学びの計画・実行・反省(自己評価)履修申告チェック
- 授業外の活動・就職活動の計画・実施・反省
- 学修成果(レポート・ゼミ報告等)の添付・蓄積
- アドバイザー-教員(担任教員・指導教員等)との面談:履修状況の相互理解を図ります。



■人間文化課程の専修プログラム一覧

国際文化専修プログラム	(キーワード) 英米 ドイツ フランス ロシア 中国 韓国 歴史 文学 言語 文化
(養成人材像) 英米・ヨーロッパ・アジア諸地域の歴史・文学・言語・文化などをめぐって、国際的視野から、多文化共生を目指した研究を行い、多言語・多文化交流を実践できる人材を養成する。	
(卒業論文のタイトル例) ●18世紀プロイセン軍の徴兵と兵士の生活 ●明王朝建文帝・永楽帝の政権人員についての比較考察 ●日本人英語学習者に必要なコミュニケーション方略とその指導 ●「親しい友人」とはー日本とニュージーランドでの比較 ●和歌・俳句のロシア語訳をめぐる考察ーコンスタンチン・バリモントによる「翻訳」を例に ●中国朝鮮族の言語と現状	
日本文化専修プログラム	(キーワード) 日本語 日本文学 日本史 日本思想史 日本書文化 考古学 日本文化
(養成人材像) 日本という地域における人間の様々な文化的営みについて深く分析・考察することを通して、グローバル化社会で活躍できる人材を養成する。	
(卒業論文のタイトル例) ●『源氏物語絵巻』竹河第二図論 ●『葉隠』にみる死生観 ●縄文時代における人と動物の関係について ●文末表現「ケ」の研究ー盛岡市地域若年層の用法 ●香紙切を基調とした仮名作品制作研究 ●盛岡藩と仙台藩の藩境論争について	
現代社会共創専修プログラム	(キーワード) 哲学 倫理学 社会学 表象文化論 ジェンダー エスニシティ 社会病理 社会的排除 ケア 科学技術
(養成人材像) 人文学および社会学の思想や研究技法を修得することによって、複雑化する現代社会の諸問題の根幹にある要因や価値の対立を見抜く力を身につけ、高い倫理性と実践的思考をもって共生社会の発展に寄与できる人材を養成する。	
(卒業論文のタイトル例) ●クローン技術の是非についての考察ークローン人間と治療的クローン ●AIの倫理的問題：既存の問題と新しい問題 ●金原ひとみ作品における異性愛秩序とミソジニーー自己破壊と諦めをキーワードに ●Jホラー映画からみる1990年代ー「心の闇」とサイコ・ホラー ●障害のある人の社会的支援についてのー考察ーレスパイトサービスに着目して	
人間行動専修プログラム	(キーワード) 人間行動 集団 個人 心理 臨床 人格 認知 犯罪 社会 地域 スポーツ 運動 地域づくり 情報 実験 調査 統計分析 実証研究
(養成人材像) 人間行動を個人的側面と集団的側面から総合的に理解し、地域住民の心身の問題、家族の問題、生きがいの問題など、人々が抱える多様な問題に適切に対処できる人材を養成する。	
(卒業論文のタイトル例) ●謙遜を用いたコミュニケーションが対人関係に与える影響ー会話場面に着目した実験的検討ー ●演劇に関するアーツマネジメントの在り方についての考察ー盛岡の演劇活動団体に着目してー ●解離特性の神経科学的検討ー解離性没入傾向に注目してー ●こころの減災を目的とする心理教育プログラムの開発に関する研究ー過覚醒が災害自己効力感に与える影響を主としてー ●更木神楽権現舞と石名畑神楽権現舞の「上手さ」に関する事例的研究	

■地域政策課程の専修プログラム一覧

政策法務専修プログラム	〈キーワード〉 政治学 法学 公法学 刑事法学
〈養成人材像〉 法学・経済学・環境学の基礎的知識を踏まえ、公法学、刑事法学、政治学の観点から法制度・法政策を学修し、持続可能な地域社会の創生を担う人材を養成する。	
〈卒業論文のタイトル例〉 <ul style="list-style-type: none"> ●政治分野における女性の活躍推進ー日本におけるポジティブアクションの必要性についてー ●貧困は自己責任かーひとり親世帯の貧困の考察ー ●「自動運転」にかかわる刑法上の諸問題の検討 ●少年法に係るマスメディア報道と世論への影響 ●所有者不明の土地に関する問題の解決への検討 	
企業法務専修プログラム	〈キーワード〉 商事法 労働法 財産法 家族法 防災
〈養成人材像〉 法学・経済学・環境学の基礎的知識を踏まえ、商事法、労働法、財産法、家族法を中心とする法制度・法政策を学修し、持続可能な地域社会の創成を担う人材を養成する。	
〈卒業論文のタイトル例〉 <ul style="list-style-type: none"> ●取締役の責任 ●労働時間とワークライフバランス ●災害下の民法的課題 ●離婚後の親権 	
地域社会経済専修プログラム	〈キーワード〉 経済学 経営学 財政学 地域経済 持続可能な地域づくり
〈養成人材像〉 経済学の基礎的学修とともに、地域・地方自治に係る基本的な制度・政策を学ぶことによって、持続可能な地域づくりを担う人材を養成する。	
〈卒業論文のタイトル例〉 <ul style="list-style-type: none"> ●リース方式による企業の農業参入の現状と課題ー岩手県の事例分析を通してー ●地域格差の要因分析ー企業立地と所得移転の構図ー ●地域振興策の成果検証ー盛岡市の施策を事例にー ●日本における非正規雇用と労働生産性の関係 ●企業における長時間労働是正へ向けた労使の取り組みと人事施策の変化 	
地域環境専修プログラム	〈キーワード〉 環境学 持続可能な社会 環境政策 環境経済学 環境社会学 環境化学 環境リスク学 環境生態学 自然保護 環境分析
〈養成人材像〉 持続可能な社会の構築に向けて、地域の創生に貢献する、地域の環境政策や環境マネジメントに関する実践的知識と能力を有する人材を養成する。	
〈卒業論文のタイトル例〉 <ul style="list-style-type: none"> ●自然資源を活用した地域振興ー南三陸町をはじめ環境認証取得地域の事例からー ●遊びの変容から見た自然体験活動の意義と可能性ー他地域の事例を参考にー ●プラスチック海洋汚染によるサケへの蓄積に関する研究 ●環境に配慮した容器・包装の現状と今後の可能性に関する研究 	

副専修専門プログラム

どちらの課程の学生も副専修プログラムとして履修できますが、このプログラムを主専修プログラムとして選択することはできません。

地域社会連携専修プログラム	〈キーワード〉 経済学 地域社会 産業・労働 法学 環境学
〈目的・養成人材像〉 経済学を基礎として、法学や環境学の視点を取り入れながら地域社会の現場で生じている生産・生活をめぐる諸問題を学修することによって、地域が抱える諸問題を総合的な視点から解決できる能力と意欲を育成する。	
〈科目例〉 協同組合論、地方財政論、社会保障論、労働経済論	

課程横断型プログラム

人間文化課程、地域政策課程のどちらにも属さない、課程横断型のプログラムです。

どちらの課程の学生も副専修プログラムとして履修できますが、このプログラムを主専修プログラムとして選択することはできません。

グローバル・地域人材育成プログラム	〈キーワード〉 留学 地域課題
〈目的・養成人材像〉 留学等で獲得したグローバルな視点や行動力を生かし、個々の学生の所属する課程に応じた専門性に基づく、社会的・文化的・あるいは環境問題にかかわる地域の諸課題の解決に貢献する能力と意欲を育成する。	
〈科目例〉 課題解決型国際研修（英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語）、国際教育科目、交換留学など	

副専修プログラム「グローバル・地域人材育成」を選択した場合、交換留学または課題解決型国際研修（短期の海外研修）が必須要件となります。



教員の紹介

人間文化課程



教授 大友 展也 ドイツ言語文化

ドイツ語学、ドイツにおける活字メディアの研究、ホロコースト研究、翻訳論



教授 五味 壮平 情報学、情報デザイン

情報デザイン、ソーシャルデザイン、地域情報化など



教授 奥野 雅子 発達・臨床心理学

発達障害児やその家族への支援に関する研究、専門家が用いるコミュニケーションに関する研究、ジェンダー・センシティブ・コミュニケーションに関する研究



教授 齋藤 伸治 英語学、言語学

生成文法（語彙意味論）や認知意味論の枠組みを用いての、日英語の基本的語彙の意味構造の研究



教授 織田 信男 人格・臨床心理学

パーソナリティ研究、不一致情報の処理機構研究、カウンセリングの効果研究、日記研究



教授 シュヴァムボルン・フランク ドイツ文学、外国語としてのドイツ語

ヨーロッパ文化、ドイツ文学・演劇学、特にW・G・ゼーバルトおよびトーマス・ベルンハルトの研究



教授 海妻 径子 ジェンダー論

近代日本の父性論、男性性研究、フェミニズム



教授 鋤田 智彦 中国語学

中国語音韻学、特に対音資料を用いた中国近世音研究、周辺言語における漢字音研究



教授 川原 正広 実験・臨床心理学

感情状態の測定法に関する研究、心的イメージを用いた心理的介入法に関する研究、視空間情報処理能力の測定法に関する研究



教授 スマイリ・ジム 英語コミュニケーション

大学の英語教育の理論と実践に関する研究、英語の教材開発研究



教授 川村 和宏 ドイツ文学、外国語としてのドイツ語

現代ドイツ文学、ドイツ語圏の児童文学、特にミヒャエル・エンデ研究、ゲーテの『メルヒェン』、携帯電話やスマートフォン向けドイツ語学習ソフトウェア開発と学習効果分析



教授 田中 隆充 デザイン学、芸術工学、プロダクトデザイン

人にやさしいプロダクトデザインの研究、地域性を意識したパッケージデザインの研究、継ぎ手を用いた玩具のデザイン研究、観光と災害に適応したアプリケーションの研究開発、新規的な商品を開発するための発想支援法の開発



教授 木村 直弘 音楽学、美学藝術学

藝術思想史、西洋音楽史、サウンドスケープ、宮澤賢治研究



教授 中里まき子 フランス文学

近現代フランスの文学と歴史の研究、フランス革命や世界大戦の証言の研究、日本文学のフランス語翻訳



教授 グラ・アレクサンドル 比較文化、フランス語教育法

読む、聞く、話す、書くの4技能を効果的に養成するフランス語教育法の実践と教材開発。文化人類学（「恐れ」の概念を中心に、極東地域の宗教民族・宗教性や政治性と西欧の比較）



教授 中村 安宏 日本感性思想史

近世を中心に、日本人の考え・思い・願い・祈り・感性の歴史について、東アジアを視野に入れながら、文献（文学も含む）・石碑・図画などを活用して研究



教授 小島 聡子 日本語学

日本語の歴史について（特に、中古和文における動詞の活用及び補助動詞の変遷、また、近代化以降の日本語の状況についてを中心に）



教授 樋口 知志 日本史

籍帳制度や税制を中心とした律令国家地方支配の研究、列島北部における蝦夷・城柵・仏教寺院や地域間交流の研究、安倍・清原・奥州藤原氏の研究



教授 小林 葉子 異文化コミュニケーション論、応用言語学

特に第二言語コミュニケーション学における、異文化コミュニケーション・言語学習への態度



教授 本村 健太 視覚文化、ヴィジュアルデザイン

ヴィジュアルデザイン、映像メディア表現、パウハウスや視覚文化に関する研究、地域の芸術文化に関する活動



教授 梁 仁實 エスニック・マイノリティ論、日韓文化交流史

日本の視覚メディアにおける民族問題に関する研究、日韓の文化交流史



教授 横井 雅明 フランス言語文化

現代フランス語文法研究、ギョーム派言語学、話し言葉の研究



准教授 麻田 雅文 アジア史

日露と中露関係、ならびに中国東北（満州）をめぐる国際政治史



准教授 岡部 祐佳 日本文学

日本近世文芸研究（特に、日本近世の書簡体小説およびその史的変遷についての研究、日本近世における書簡文化と文芸の相関性についての研究）



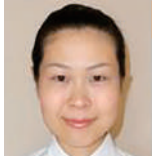
准教授 音喜多信博 人間学（哲学）

現代ドイツ語圏・フランス語圏の哲学的人間学の研究、生命倫理学研究



准教授 小野澤章子 地域社会学

現代日本における地域社会研究、第1次産業からみた地域生活の特質研究、社会調査法を用いた社会的ネットワーク研究



准教授 梶 さやか 西洋史

近代東欧史が専門。貴族や知識人の文化・社会・教育活動や歴史認識をナショナリズムと絡めて研究



准教授 神野 知恵 韓国文化学

民族音楽学・民俗芸能研究（主に韓国の伝統的な打楽器芸能「農楽」の研究）、日韓の門付け比較研究



准教授 久保田陽子 仮名書道

古筆を基調とする仮名の書・仮名系漢字仮名交じりの書の作品制作研究、パッケージロゴ等の生活を支える書の制作研究、西行、与謝野寛・晶子の筆跡研究



准教授 佐々木 誠 地域支援・臨床心理学

心理学的地域支援に関する研究、心理教育とその効果に関する研究、カウンセリングにおけるナラティブ生成に関する研究



准教授 三野宮春子 英語教育学、相互行為分析

外国語の習得と教育に関する研究（特に、教材開発とマルチモーダル会話分析、経験学習モデルに基づく教師教育、即興の創造性に焦点を当てて）



准教授 清水 香 考古学

日本考古学、アイヌ文化研究、物質文化研究、漆器が文化や社会に与えた影響（生産・流通・交易・文化変容・価値観など）に関する研究



准教授 鈴木 護 社会心理学、犯罪心理学

公共場面での行為選択に関する研究、犯罪・非行の社会心理学的研究



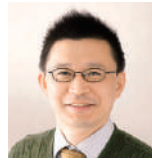
准教授 立花 良 認知心理学

注意と眼球運動の心理物理学的研究、社会性の認知心理学的研究、行動科学における方法論研究、視覚的注意や眼球運動の時空間情報処理プロセス、大規模自然画像やVRを利用した社会的知覚認知、行動科学および神経科学における研究手法の正確性と精度



准教授 二瓶真理子 倫理学

科学技術にかんする哲学・倫理学、社会認識論やフェミニズム認識論などの現代英米系科学哲学・分析哲学



准教授 橋本 学 英語学、社会言語学、言語障害学

理論言語学、及び、言語障害学・社会言語学への応用



准教授 長谷川弓子 スポーツ心理学

スポーツにおける心理学的問題とパフォーマンスに関する研究、運動学習



准教授 樋口くみ子 社会学・社会病理学

不登校支援の地域格差に関する研究、日豪の不登校支援の比較研究



准教授 松下 隆志 ロシア文学

現代を中心とするロシア文学・文化の研究、ロシア文学の翻訳



講師 嘉門 良亮 スポーツ社会学

地域社会とスポーツに関する研究、アウトドアスポーツと自然体験活動の社会学



講師 関野 佳苗 イギリス文学

現代イギリス文学・文化の研究、フェミニズム批評、英語文学

地域政策課程



教授 内田 浩 刑法

刑法における因果関係論（客観的帰属論）の研究（正犯・共犯を含む）、責任論



教授 宮本ともみ 民法（家族法）

ドイツ婚姻法の研究、主として、婚姻の本質および婚姻住居利用規整の日独比較的研究



教授 杭田 俊之 理論経済学

市場経済システムの制度的進化と変化についての研究、株式会社金融についての研究、F. AハイエクとT. ヴェブレンの経済理論についての研究



教授 横山 英信 農業経済論

日本食糧政策史、戦後現段階における日本の食糧・農業政策、地域農業の展開動向



教授 齊藤 彰一 政治経済学

MEGA 研究・リカードウ研究・J. Sミル研究・日本の格差問題



准教授 金森 由妃 環境生態学、環境統計学

気候変動にともなう環境の変化が、生物の生息域、生物多様性、生物間の関係性、および生態系機能に与える影響について、統計学的手法を用いて研究



教授 塚本 善弘 環境社会学

北上川流域をフィールドとした〈人間-自然〉共生・ commonsに関する社会学的研究、環境 NPO・ボランティア活動促進や「エコ住宅」地域普及策をめぐる研究



准教授 中島 清隆 環境政策論

持続可能性に関する環境政策の社会科学分野の学際・総合研究



教授 寺崎 正紀 環境化学、環境リスク学

地域水圏および生活圏における新たな有機汚染物質の検索とリスク評価に関する研究



准教授 朴 香丹 環境経済論

家計部門における環境保全活動の促進が個人の幸福に与える影響及び温室ガスの削減効果・応用計量経済学



教授 西牧 正義 民法（財産法）

抵当権など担保権に関する研究、福祉契約と意思能力に関する研究



准教授 本庄 未佳 憲法

日本国憲法の憲政史研究、スコットランド地域自治権保障からみる英国立憲主義に関する研究



教授 深澤 泰弘 商法

各種保険（損保・生保、傷害保険）契約及び保険募集に関する法律問題、並びに取締役の責任や M&A に関する法律問題における研究



准教授 吉村 武洋 財政学、地方財政論

持続可能な地域づくりをめぐる税財政制度・費用負担の研究



教授 藤本 幸二 刑事訴訟法、法制史

近代刑事手続の発展史、市民の司法参加が地域にもたらす影響



准教授 渡部あさみ 経営学、人的資源管理論

先進諸国における長時間労働問題と人事労務管理に関する研究



教授 松岡 勝実 民法（財産法）

消費者契約の諸問題、消費者市民社会における人間像と正議論、災害法制度の研究、commons論



講師 西畑 佳奈 労働法

労働法の履行確保および労働者の権利救済に関する日英比較法研究



教授 丸山 仁 政治学

環境政治学（グリーン・ポリティクスとスロー・ポリティクス）

海外派遣・留学プログラム

◆交換留学

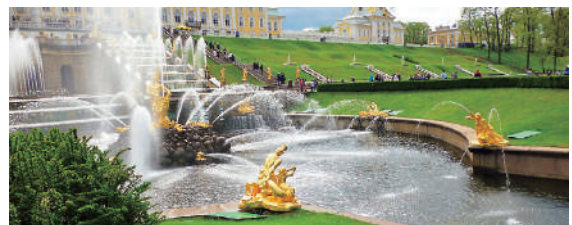
交換留学は岩手大学と協定を締結している協定校との間で行うもので、次のようなメリットがあります。

- 岩手大学で授業料を払えば、留学先の授業料は不要です。
※ただし生活費及び渡航費等の負担が必要です。
- 参加経費の一部について、学内の支援事業に申請できます。
- 留学先で取得した科目の単位は、岩手大学の科目の単位に振替ができます。
※岩手大学の科目に該当する科目を振り替えるため、全ての科目を振り替えられる訳ではありません。
- 休学しないので、単位の取り方を工夫すれば、4年間で卒業することが可能です。

国・地域	場 所	期 間
 ロシア	サンクト・ペテルブルグ 国立文化大学 ※現在は受け入れのみで派遣は休止中	6 か月～1 年
 フランス	ボルドー・モンテーニュ大学	4 か月～10 か月
 韓国	明知大学校	6 か月～1 年
	群山大学校	
 アイスランド	アイスランド大学	1 年
 アメリカ	テキサス大学オースティン校	1 年
	アーラム大学	
 カナダ	セント・メアリーズ大学	1 年
 中国	寧波大学	6 か月～1 年
	西北大学	
 台湾	高雄師範大学	6 か月～1 年

(2024年7月現在の協定校です。)

※留学期間が「6 か月～1 年」とある場合は、期間を自分で選択できます。(留学先の大学の学期に合わせて1学期～複数学期を選びます。)



留学に関する Q&A

Q： 交換留学制度においてアメリカ、カナダの大学へ行くには英語力の条件があると聞きました。どのくらいの成績を取れば、留学が可能なのでしょうか？







A： 協定を結んでいる大学（英語圏）に交換留学生として派遣されるには、TOEFL で一定程度の得点を取っていることが求められます。TOEFL-iBT だと 79～80 点です。（TOEIC で換算すると約 730 点程度）
 ※なお、TOEFL の得点力をアップさせるためのプログラムを用意していますので、留学希望者は、入学後このプログラムで得点をアップする訓練を行なうことができます。

Q： 留学したら留学先の学生寮に住むのですか？

A： 留学先によっても異なりますが、基本的に協定大学への留学については、留学先の学生寮に入ります。

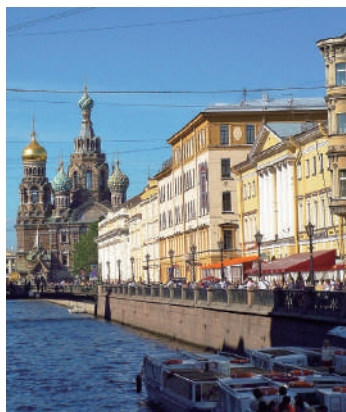
◆課題解決型国際研修（短期型）

下記のプログラムは大学の休業期間に実施している課題解決型国際研修です。
 （各種補助の受給も可能です。）

プログラム名	国・地域の例	場 所	期 間	費用負担 (令和 5 年度実績)
課題解決型 国際研修 (英語)	 マレーシア	国立マラヤ大学	3 週間	約 30 万円
課題解決型 国際研修 (ドイツ語)	 ドイツ	ドレスデン工科大学	2 週間	約 34 万円
課題解決型 国際研修 (フランス語)	 フランス	西部カトリック大学	3 週間	約 45 万円
課題解決型 国際研修 (中国語)	 中国	曲阜師範大学・寧波大学 西北大学	2 週間	約 25 万円
課題解決型 国際研修 (台湾)	 台湾	高雄師範大学	2 週間	約 25 万円
課題解決型 国際研修 (韓国語)	 韓国	群山大学校・明知大学校	2 週間	約 15 万円

※年度により実施されないプログラムがあります。

- また、一部のプログラムは、国内外の情勢により、リアルタイム型のオンライン研修を実施することがあります。
- ※こちらは本学部主催の研修です。このほかに国際教育センターが実施する国際研修科目（全学部対象）もあります。
- ※同時に外国語授業を受けられるプログラムもあります。
- ※他にも、全学部学生対象として国際研修科目が開講されます。
- ※費用負担については、経路や燃油価格、国際情勢、為替レートにより変動する可能性があります。



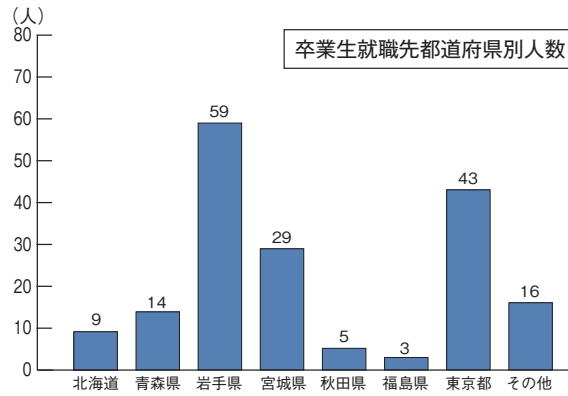
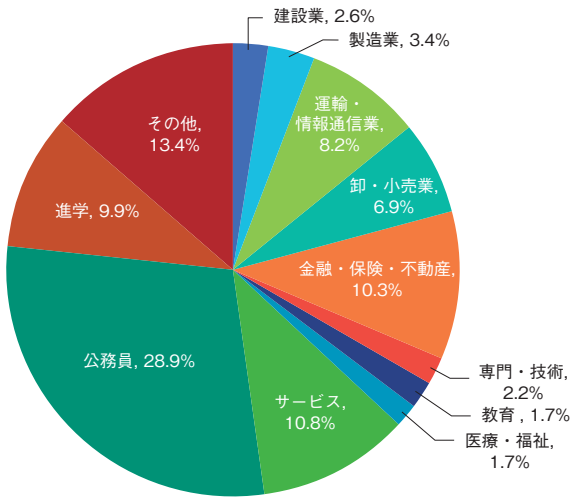
卒業生進路状況

令和5年度卒業生・修了生の進路状況

就職率：就職者数／就職希望者数

人文社会科学部	卒業生数	決定進路												就職率
		男	女	大学院進学	その他	うち		就職	うち正規雇用	うち県内就職者	公務員	教員	民間、その他	
						うち研究生等	うち各種学校							
人間文化課程	152	41	111	18	23	0	4	111	108	31	27	0	84	92.3%
地域政策課程	80	42	38	1	8	0	0	71	70	28	40	0	30	94.6%
計	232	83	149	19	31	0	4	182	178	59	67	0	114	93.2%

学部卒業生



過去の進路状況や就職先については岩手大学ホームページの「就職・キャリア」にて公表しています。



入試について

各入学試験の詳細、正式決定の内容は出願する年度の入学者選抜要項及び各募集要項でご確認ください。

募集要項の確認（入手）方法は以下のとおりです。

- ①岩手大学学務部入試課窓口で冊子体をお受け取りいただく
- ②岩手大学ウェブサイトにてPDF版をご覧ください
- ③岩手大学ウェブサイトを通じて冊子体を資料請求いただく

※一般選抜（前期日程・後期日程）については②③のみとなっています。

※岩手大学ウェブサイトでは最新の募集要項が公表されていない期間は、前年度の募集要項（PDF版）を参考にさせていただきますが、出願の際は必ず出願する年度の募集要項をもって出願ください。

入試日程や過去問題など、その他入試に関する情報も岩手大学ウェブサイト

- 入試情報（<https://www.iwate-u.ac.jp/admission/>）よりご覧いただけます。



岩手大学ウェブサイト
入試情報

岩手大学人文社会科学部

〒020-8550 岩手県盛岡市上田三丁目 18-34
TEL 019-621-6707・FAX 019-621-6065
<https://jinsha.iwate-u.ac.jp/>



交通

- 盛岡駅からバスで15分（バスターミナル11番のりば）
駅上田線（307系統）の「松園バスターミナル行き」
又は駅桜台団地線（315系統）の「桜台団地行き」で
「岩手大学前」下車
- 盛岡駅からタクシーで約10分
- 盛岡駅から徒歩約20分



2024年7月 発行

